

第25回 日本労働社会学会大会
2013年11月16日（土）
於：東北福祉大学

壮年非正規労働者の実像

—JILPT個人ヒアリング調査から—

労働政策研究・研修機構（JILPT）

研究員 高橋 康二

t_koji@white.plala.or.jp

報告の構成

I. 問題設定

II. 方法

III. 分析結果

1. 非正規労働をするに至る過程(22名) $\boxed{X} + \boxed{Y}$

2. 壮年非正規労働者の仕事と生活(12名) $\boxed{X}$

3. 壮年期の正社員転換(10名) $\boxed{Y}$

IV. 結論と含意

I . 問題設定

研究の目的と課題

【目的】労働行政の観点からみて、壮年非正規労働者（＝35～44歳の男性・無配偶女性の非正規労働者）を、既存の非正規労働者類型とは異なる、新しい政策対象として捉えるべきかを検討する。

【課題】具体的には、以下の3点を明らかにする。

1. なぜ壮年期に非正規労働を？
2. 壮年非正規労働者の仕事と生活の実態は？
3. 正社員転換を含め、キャリアアップの条件は？

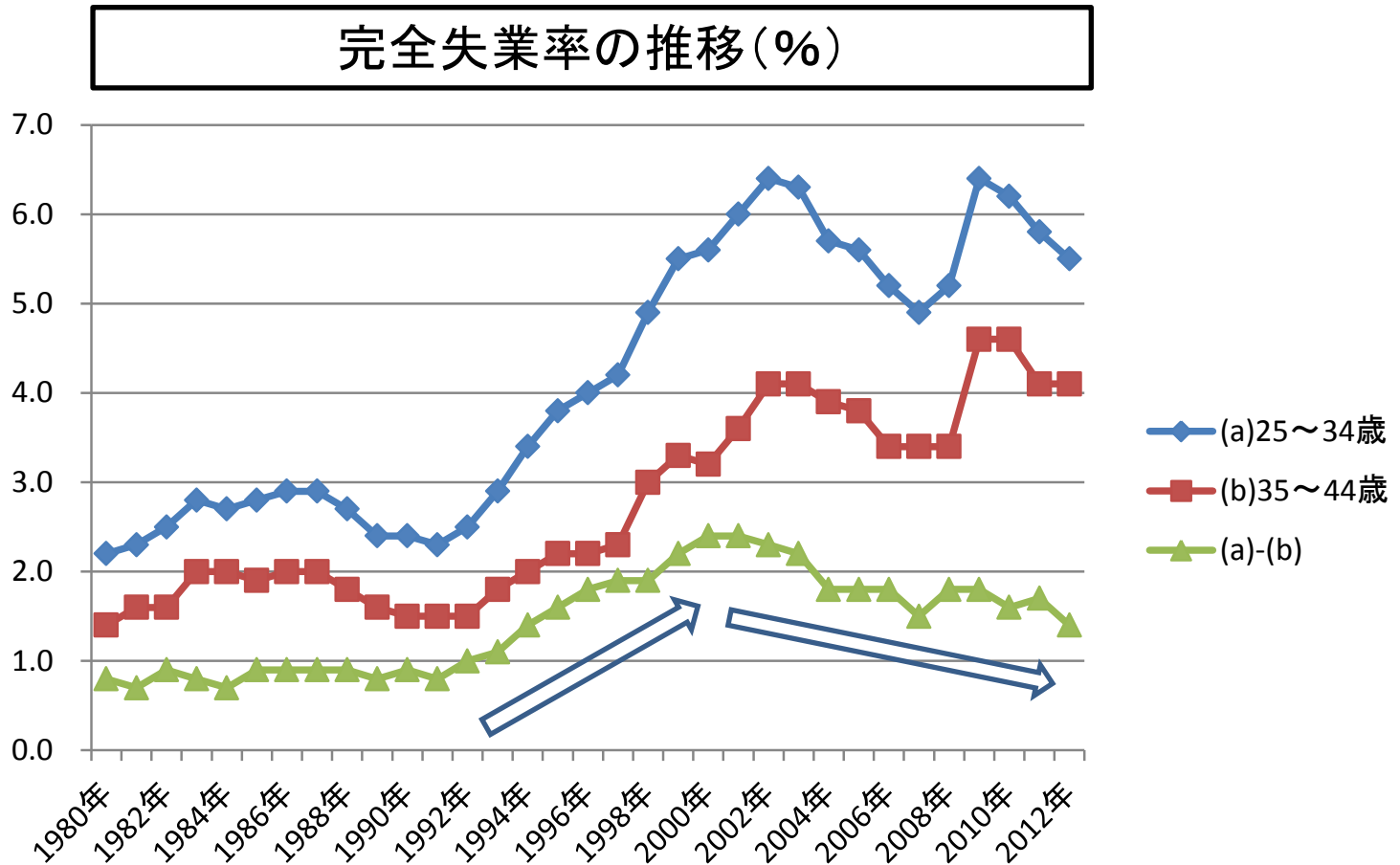
注：1）非正規労働者

- └ 有配偶女性（主婦パート）
- └ 男性・無配偶女性
 - └ 34歳以下（若年フリーター）
 - └ 35～44歳（壮年非正規労働者）
 - └ 45歳以上

注：2）建設現場・港湾などで働くいわゆる不安定就労者は、主たる研究対象とはしない。

背景(1)

若年の雇用環境と壮年の雇用環境の接近



1990年代： 若年失業率の上昇

2000年代： 壮年失業率の上昇

背景(2)

壮年の非正規労働者の増加

「若年」の非正規だけでなく「壮年」の非正規も増えている(↓)

25～34歳の男女	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2012年
(A)就業者	1434	1430	1429	1414	1397	1352	1313	1267	1235	1186
(B)役員を除く雇用者	1314	1311	1323	1307	1305	1258	1223	1180	1154	1122
(C)非正規労働者	269	281	308	318	328	324	313	302	298	297
(C)/(A)×100	18.8	19.7	21.6	22.5	23.5	24.0	23.8	23.8	24.1	25.0
(C)/(B)×100	20.5	21.4	23.3	24.3	25.1	25.8	25.6	25.6	25.8	26.5

35～44歳の男女	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2012年
(A)就業者	1251	1276	1294	1323	1360	1399	1427	1436	1451	1509
(B)役員を除く雇用者	1052	1082	1102	1128	1167	1214	1238	1254	1272	1337
(C)非正規労働者	259	274	289	301	318	329	344	338	348	370
(C)/(A)×100	20.7	21.5	22.3	22.8	23.4	23.5	24.1	23.5	24.0	24.5
(C)/(B)×100	24.6	25.3	26.2	26.7	27.2	27.1	27.8	27.0	27.4	27.7

そのことは、「男性」「未婚女性」に限定してもあてはまる(↓)

10年間で51万人から104万人に

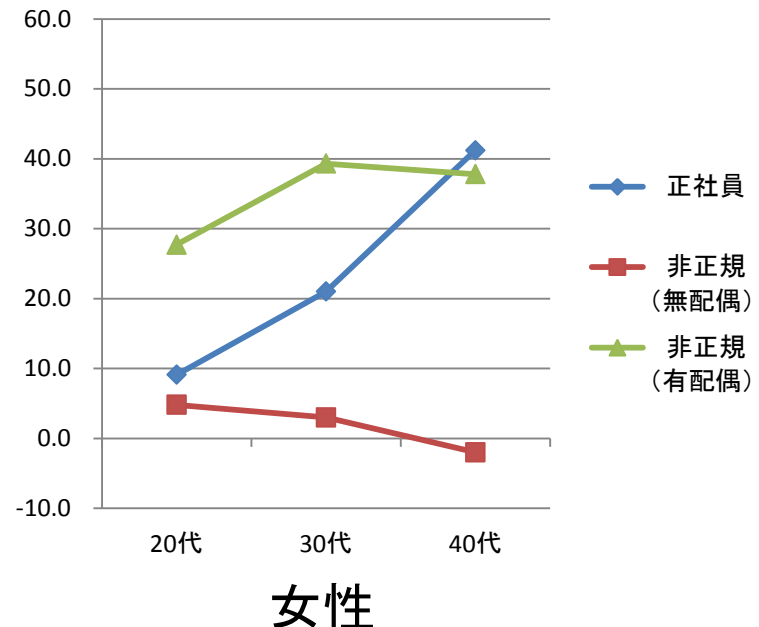
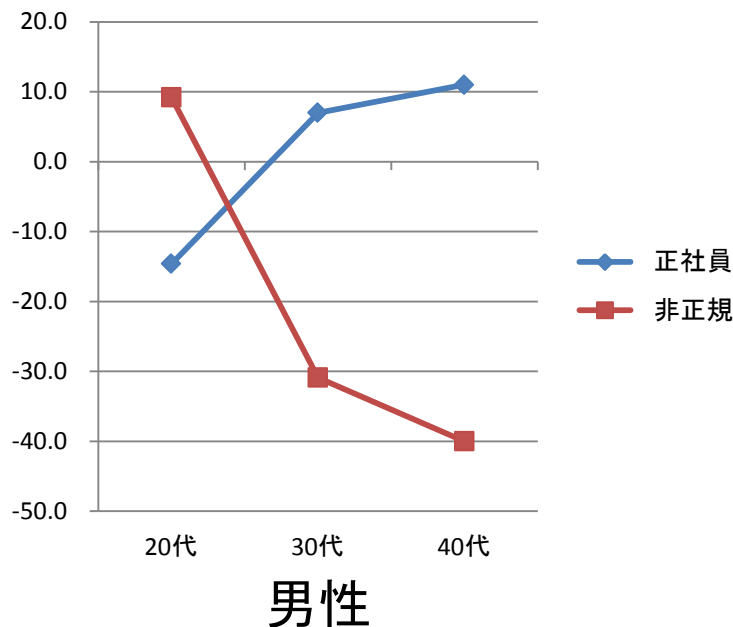
35～44歳の男性	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2012年
(A)就業者	744	757	767	778	797	816	834	835	843	870
(B)役員を除く雇用者	624	638	650	656	675	699	713	718	728	753
(C)非正規労働者	35	35	43	45	49	53	58	53	57	61
(C)/(A)×100	4.7	4.6	5.6	5.8	6.1	6.5	7.0	6.3	6.8	7.0
(C)/(B)×100	5.6	5.5	6.6	6.9	7.3	7.6	8.1	7.4	7.8	8.1

35～44歳の未婚女性	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2012年
(A)就業者	71	78	82	93	97	112	112	121	123	134
(B)役員を除く雇用者	66	72	75	86	91	105	105	113	116	127
(C)非正規労働者	16	20	24	24	28	34	34	37	38	43
(C)/(A)×100	22.5	25.6	29.3	25.8	28.9	30.4	30.4	30.6	30.9	32.1
(C)/(B)×100	24.2	27.8	32.0	27.9	30.8	32.4	32.4	32.7	32.8	33.9

背景(3)

壮年非正規労働者が直面している困難

- ① 自身の加齢、両親の加齢による生活負担の増加
- ② 若年非正規労働者と比べて、同年代の正社員との間でより大きな賃金格差に直面（厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より）
- ③ 正社員登用、正社員転職のチャンスも減る [JILPT編 2011a]
- ④ 年齢上昇とともに「仕事満足度」も低下 [JILPT編 2011b] (↓)



先行研究(1)―「主婦パート」―

- 石油危機後の産業構造再編のなかで、安価な労働力として既婚女性パートタイマーの活用が進む [大沢 1993]
- 今日でも「最大の非正規雇用」(約800万人) [本田 2010]
- 最大の課題は、正社員との間の賃金格差 [本田 2010]
- 背景には、女性労働力の「M字型カーブ」 [JILPT編2011c]
- 政策的には、正社員との間の均衡・均等待遇の確立と、結婚・出産・育児期の継続就業の促進が重視されている [厚生労働省 2013a]

先行研究(2)―「若年フリーター」―

- 内閣府編[2003]を踏まえ、34歳以下の非正規労働者（ただし、既婚女性を除く）と定義
- バブル経済崩壊後の新卒採用抑制にともない急増 [日本労働研究機構編 2000; 小杉 2003]
- 最大の課題は、若年期の職業能力蓄積不全 [佐野 2007]
- 離学時に不利な条件を抱えている者ほどフリーターになりやすい [内閣府 2012]
- 政策的には、「人間力養成型訓練」などの能力開発を通じた正社員転換、学校現場でのサポート強化が重視されている [厚生労働省 2012a]

先行研究(3)―壮年非正規労働者―

若年フリーターと連続？

- 厚生労働省[2013b]は、35歳以上の男性・未婚女性の非正規労働者を「年長フリーター等」と呼ぶ。
- 2012年に設置された「わかものハローワーク」では、「おおむね45歳未満」を正規雇用就職支援の対象とする。[厚生労働省 2012b]

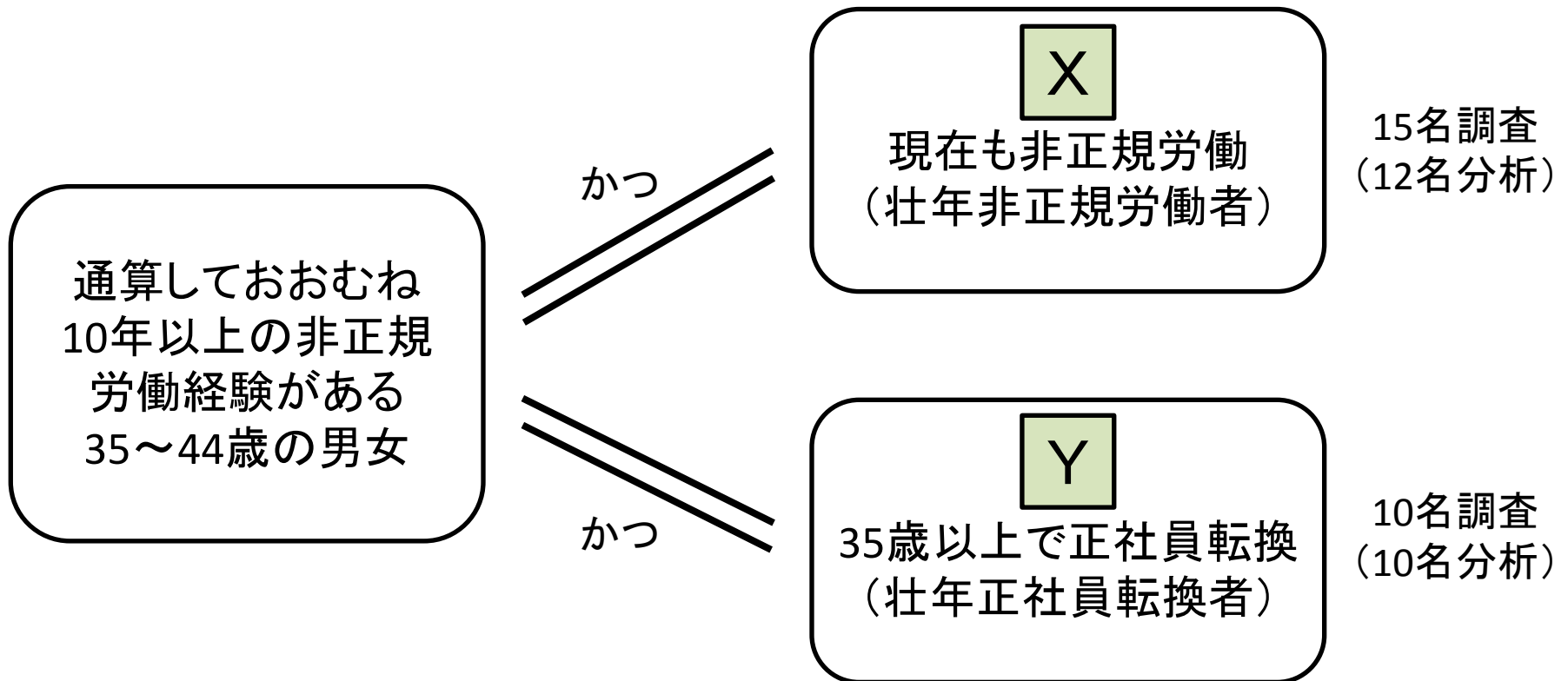
若年フリーターとの差異

- 大都市の30代男性非典型労働者のうち、約6割は正社員経験あり。[JILPT編2013a]
- 離学後の初職が非正規雇用の男性のうち、その後20年間一度も正社員になっていない者は、5%程度。[山本 2011]
 - ⇒ 壮年期に非正規労働をするには、別の要因が働いている可能性がある。
- 現行の労働基準法は、長期勤続によるキャリア形成を図る観点からであれば、若年者を優先的に採用することを認めている。
 - ⇒ キャリアアップのための条件も、若年フリーターとは異なる可能性がある。

II. 方法

調査概要

- JILPTが2012年10月～12月に実施
- Webモニターから条件該当者を抽出(学歴・職種分布を考慮)
- インタビューシートを事前送付・記入依頼 → 約2時間の聞き取り



※数は少ないが、典型事例にアプローチする方法を選択

集計・分析対象者

	非正規 労働者	正社員 転換者	計
男性	7	5	12
女性	5	5	10
35～39歳	6	1	7
40～44歳	6	9	15
中学	1	0	1
高校	5	5	10
専門学校	1	2	3
短大	1	0	1
大学	4	3	7

	非正規 労働者	正社員 転換者	計
未婚	8	4	12
既婚（事実婚含む）	1	1	2
離別	3	5	8
200万円未満	2	0	2
200～300万円未満	6	2	8
300～350万円未満	4	2	6
350～400万円未満	0	2	2
400万円以上	0	4	4
平均年収	250万円	353万円	297万円

調査対象者25名のうち、

- 2名はケースレコードの内容確認・掲載許諾が得られず。
- 既婚女性1名は集計・分析対象としない。（事前にスクリーニングできず）
- 22名について集計・分析。

ケースレコード全文は、JILPT編[2013b]に掲載（<http://www.jil.go.jp/institute/chosa/2013/13-126.htm>）

III. 分析結果

1. 非正規労働をするに至る過程

$$\boxed{X} + \boxed{Y} = 22\text{名}$$

1-1 初職

①「初職非正規」ばかりではない。

- 「初職非正規」は9名。(YA)(XB)(YI)(XM)(XN)(XR)(YV)(YW)(YY)
うち、「初職から一貫して非正規」は2名のみ。(XB)(XN)
- 残りの13名は「初職正社員」。

②「初職正社員」13名のうちの10名は、 学校経由/在学中の就職活動による。

学校から職業への移行という点では、
約半数は「標準的」な過程を経ている。

1-2 正社員からの離職理由

① 会社都合退職

廃業による失業_(XD)／給与不払い_(XL)／会社業績悪化により「男子は残して女子は依願退職」_(XL)／会社のコンプライアンス違反のあおりを受け整理解雇_(XM)

② 理不尽な労働条件

勤務地、出勤時間、残業有無が採用時に提示された条件と異なる_(XJ)／過大なノルマ、自腹での商品購入_(XT)／残業手当支払われない、有給休暇取得できない_(YV)

③ 長時間労働・業務上疾病

夜11時や12時に及ぶ恒常的な深夜残業_(XD)／朝8時半出勤で夜11時に退勤_(YK)／工場での立ち仕事により腰痛に_(XQ)／1日13時間、1週80時間近くの労働_(XR)／終電帰宅が続き「うつ病」に_(XT)

1-3 非正規労働の継続理由

① 「正社員」＝「長時間労働」イメージ

自身の経験から、正社員は仕事負荷が強いというイメージ_(XF)／正社員の募集要項を見ると残業が多そうな職場ばかり_(XL)／正社員登用を打診されるが、仕事負担が重いことを熟知_{(XN)(XT)}

② 自身の疾病

睡眠時無呼吸症候群により夜勤が困難なため、地方工場への正社員転職をためらう_(XJ)／うつ病_(XL)／腰痛_(XQ)

③ 転職活動にともなう負担、不正確な求人情報

求職期間中の生活費の見通しが立たない_(XD)／就職活動がきつい_{(XN)(XQ)}

正社員のつもりが派遣社員_(XC)／正社員のつもりが時給制の契約社員_(XC)／「最初はアルバイトから」と言われ5年間アルバイト_(XM)／「正社員募集」の見出しだったが登録型派遣社員_(YV)

2. 壮年非正規労働者の仕事と生活

 = 12名

2-1 現在の仕事

① 年収／昇給制度の有無

- 平均年収250万円。(正社員転換者より約100万円低い)
- 12名のうち8名が昇給制度「なし」。
- 他方、非正規労働者のスキルを管理し、スキルアップにともない仕事レベルと賃金を上げていく会社も、なくはない(XR)。

② 仕事全体の満足度

- 12名のうち8名が仕事全体に「やや不満」「非常に不満」。
- 不満の理由は、雇用不安、低賃金、職場内での賃金格差、社会保険未加入など、労働条件面の問題。

2-2 現在の生活

- ① 1人暮らしが多い(7名/12名)
- ② 12名のうち6名は預貯金10万円未満。
(※うち4名は1人暮らし)
ただし、親元同居で「預貯金数百万円」も2名。
- ③ 生活全体の満足度は、「不満」が「満足」を上回る。
- ④ ちなみに、満足度の規定要因は複雑。

3. 壮年期の正社員転換

$$\boxed{Y} = 10\text{名}$$

3-1 仕事と生活の変化

- ① 10名のうち2名_{(YG)(YI)}は、正社員転換により仕事と生活の面でマイナスの変化を経験しているが・・・
- ② 10名のうち6名は、正社員転換時にプラスの変化を経験。
- 仕事へのモチベーションの回復_(YA)
 - 「自分をちょっと褒めてあげたい」_(YK)
 - 「今はもう胸張って自分の背中を自分の子供たちに見せられる」_(YO)
 - 現在の仕事に導いてくれたすべての人に「ほんとうに感謝」_(YP)
 - 余暇生活の充実（音楽鑑賞、楽器演奏）_(YW)
 - その後、さらに別の病院の正社員に転職し、一層賃金上昇_(YY)

3-2 正社員転換を導いた要因(MA)

Y

① 自社内でのOJT→内部登用(1名)_(YA)

② 職業資格の取得(5名)

2級建築士_(YO)／(2年間専門学校に通い)介護福祉士_(YP)／CCNA(IT系資格)_(YV)／
保育士_(YX)／(通信講座で)ホームヘルパー2級_(YY)

③ 同一職種での実務経験(6名)

3年程度の看護助手経験_(YG)／6年程度コールセンターで働いた経験_(YK)／建築関係の複数の会社で働いた経験_(YO)／CCNA資格取得後に登録型派遣社員として実務経験_(YV)／複数の客先でサーバ管理を経験。その会社では丁寧なキャリア管理が行われており、昇給もあった_(YW)／パートでのホームヘルパー実務経験_(YY)

④ 成長産業(医療・福祉、IT分野)への転職(6名)

病院の看護助手_(YG)／老人ホームの介護福祉士_(YP)／ネットワーク系エンジニア_(YV)／
サーバ管理エンジニア_(YW)／病院の看護助手_(YX)／老人ホームの介護職_(YY)

IV. 結論と含意

結論(1)

1. なぜ壮年期に非正規労働を？

- 学校から職業への移行は、比較的「標準的」。
- 正社員からの離職理由：
会社都合退職／理不尽な労働条件／長時間労働・業務上疾病
- 非正規労働の継続理由：
「正社員＝長時間労働」というイメージ／自身の疾病／転職活動にともなう負担、不正確な求人情報

結論(2)

2. 壮年非正規労働者の仕事と生活の実態は？

- 賃金が低い。
- 昇給制度が適用されていない。
- 全体的に見て、仕事満足度も低い。



低賃金、仕事不満

- 過半数は1人暮らし。12名のうち6名は預貯金10万円未満。(ただし、親元同居・数百万円保有者も少数いる)
- 生活満足度についても、どちらかと言えば不満を抱いている者が多い。



生活逼迫、生活不満

結論(3)

3. キャリアアップの条件は？

- 正社員転換の可能性は、たしかにある。
- その要因として、自社内のOJTも指摘できるが、該当事例は少数(1名のみ)。
- より重要なのは、職業資格の取得、同一職種での実務経験、成長産業への転職。
- なお、スキル管理、キャリア管理の仕組み次第では、非正規労働のままであっても一定程度のキャリア・アップが可能。(XR)(YW)

結論(4) —若年フリーターとの違い—

	若年フリーター	壮年非正規労働者
非正規労働に至る 原因	離学時の不利な条件	長時間労働の経験 転職活動にともなう負担
仕事と生活の 実態	低賃金・親元同居 (生活は安定)	低賃金・単身世帯 (生活が逼迫)
キャリアアップ のための 対策	「人間力養成」も含め 幅広い能力開発	職業資格の取得 同一職種の継続

含意

- 労働行政の観点から、政策対象とする必要がある。
 - その際には、若年フリーターとは質的に異なる政策対象として位置づけた方がよい。
 - 具体的な政策としては、
 - (特に若年の)正社員に対する労務管理の改善
 - 職業資格取得支援を含めた、特定職種にフォーカスした能力開発・能力評価の仕組みづくり
- ・・・などが求められる。

引用文献

- 大沢真理[1993]『企業中心社会を超えて:現代日本を<ジェンダー>で読む』時事通信社.
- 厚生労働省[2012a]「非正規雇用労働者の能力開発抜本強化に関する検討会報告書」(<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002rlop.html>)
- 厚生労働省[2012b]「わかものハローワーク・わかもの支援コーナー・わかもの支援窓口のご案内」(<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002k76u.html>)
- 厚生労働省[2013a]「育児・介護休業法・次世代育成支援対策推進法について」(http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/shokuba_kosodate/jigyoku_ryouritsu/ryouritu.html)
- 厚生労働省[2013b]「第1回 雇用政策研究会議事次第」(<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000024407.html>)
- 小杉礼子[2003]『フリーターという生き方』勁草書房.
- 佐野嘉秀[2007]「若年層の能力開発における正社員・非正社員のちがい」JILPT編『働き方の多様化とセーフティネット:能力開発とワークライフバランスに着目して』JILPT, 56-73.
- 内閣府編[2003]『平成15年版 国民生活白書』ぎょうせい.
- 内閣府[2012]「若者雇用戦略」(<http://www5.cao.go.jp/keizai1/wakamono/wakamono.html>)
- 日本労働研究機構編[2000]『フリーターの意識と実態:97人へのヒアリング結果より』日本労働研究機構.
- 本田一成[2010]『主婦パート:最大の非正規雇用』集英社新書.
- 山本雄三[2011]「非正規就業する若者が正社員へ移行する要因は何か:継続期間データを用いた規定要因分析」小杉礼子・原ひろみ編『非正規雇用のキャリア形成:職業能力評価社会をめざして』勁草書房, 80-124.
- JILPT編[2011a]『多様な就業形態に関する実態調査—事業所調査/従業員調査—』JILPT.
- JILPT編[2011b]『平成21年度 日本人の就業実態に関する総合調査(第1分冊/第2分冊)』JILPT.
- JILPT編[2011c]『出産・育児期の就業継続:2005年以降の動向に着目して』JILPT.
- JILPT編[2013a]『大都市における30代の働き方と意識:「ワークスタイル調査」による20代との比較から』JILPT.
- JILPT編[2013b]『壮年期の非正規労働—個人ヒアリング調査から—』JILPT.

ご清聴ありがとうございました。